

神学研究科

神学専攻

宗教の学術的分析を基軸に
知的洞察力と広い視野を養う。



神学研究科とは

本学神学部・神学研究科は日本で最も長い歴史を持つ神学の研究・教育機関です。宗教は「救済」の提供において個人の内面世界と密接に関わりますが、世界の言語・文化・社会・歴史とも影響を及ぼし合ってきました。神学研究科では宗教を研究対象として、私たちの生きる意味と世界の目指すべき方向を探求します。人類が作り上げ蓄積してきた、生きるための知恵である宗教を批判的・学際的に分析することを通じて、幅広い人間理解と深い知的洞察力を身に付けることができます。

3つの一神教(キリスト教、イスラーム、ユダヤ教)を学ぶこと

現在、80億人に迫る世界人口のうち、30パーセント以上の人々がキリスト教を、約25パーセントがイスラームを信じています。ユダヤ教は1パーセント未満ですが、キリスト教とイスラームの源流となった重要な宗教です。これら3つの一神教を知らずには、世界の現状や歴史を正しく理解することは不可能です。神学研究科生は5つの研究コース(聖書神学、歴史神学、組織神学、実践神学、一神教学際研究)から1つを選び、一神教に関する専門的な知識・技能を修得します。

京都・宗教系大学院連合(K-GURS)

神学研究科は、大谷大学、皇學館大学、高野山大学、花園大学、佛教大学、龍谷大学の各大学院と連携して「京都・宗教系大学院連合」を設立し、講演会やシンポジウムの開催をはじめとする学術交流を通じて宗教研究の領域を拡大・深化させています。神学研究科生は単位互換制度やチェーンレクチャーや院生発表会を活用して仏教や神道も学ぶことができます。3つの一神教を学ぶ者が日本の宗教も視野に入れることにより、新たな神学研究の可能性を開拓することが期待されています。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

Ada Taggar-COHEN 教授

- ①ユダヤ学・聖書学・古代近東の宗教と歴史
- ②古代近東の言語研究、聖書と古代近東の研究による宗教・歴史・法議論、古代近東の祭司制の比較研究
- ③①『現代ヘブライ語における前置詞の重要性—ヘブライ語の歴史と発展に関する一考察—』リトン、2018 ②共編 Current Issues in Priestly and Related Literature, Society of Biblical Literature, 2015

越後屋 朗 教授

- ①ヘブライ語聖書、古代イスラエルの社会と歴史
- ②ヘブライ語聖書を資料に、考古学的成果を加え、古代イスラエルの社会と歴史を解明する。
- ③『ヘブライ語聖書の史実性:テル・メギドでの発掘調査から』『基督教研究』2002. 64(2), 1-16.

勝又 悦子 教授

- ①ユダヤ学、ラビ・ユダヤ教研究、ユダヤ教の歴史と思想
- ②一神教の源流となり、「書物の民」として長く歴史に翻弄されてきたユダヤ教徒の歴史、思想を再構成する。特に、原始キリスト教の背景となり「律法主義」と批判されがちなラビ・ユダヤ教の多様な生活の諸相、理念、世界観を原典文献をもとに明らかにする。
- ③『モノの「穢れ」と輪郭—『ミシュナ』トホロート巻を中心に』『宗教研究』2022, 96(404), 79-102.

小原 克博 教授

- ①キリスト教思想、宗教倫理、一神教研究
- ②先端医療、環境問題、性差別などをめぐる倫理的課題や、宗教と政治およびビジネス(経済活動)との関係、一神教に焦点を当てた文明論、戦争論などに取り組む。
- ③①『一神教とは何か』平凡社新書、2018 ②『宗教のポリティクス』晃洋書房、2010

三宅 威仁 教授

- ①宗教社会学、宗教哲学
- ②神義論の思想史的研究。ペイズの定理による神の存在の帰納的論証。
- ③①「神義論の諸相—神と悪、または世界の不完全性の問題—」『基督教研究』2019, 81(2), 1-20. ②「哲学的有神論における神の存在の帰納的論証の方法論的考察」『基督教研究』2015, 77(2), 1-23.

森山 央朗 教授

- ①イスラーム史、「ハディースの徒」の社会文化史
- ②8~13世紀の西アジアにおいて、預言者ムハンマド(632年没)の言行に関する伝承(ハディース)の研究・教育に専心したウラマーたち(「ハディースの徒」)がハディースをめぐって実践した知的営為と、それによって形成された知識体系および社会的権威の歴史の変遷の研究。
- ③「ウラマーの出現とイスラーム諸学の成立」『岩波講座世界歴史8:西アジアとヨーロッパの形成』岩波書店、2022

村上 みか 教授

- ①近世キリスト教、宗教改革の歴史と神学
- ②宗教改革期の神学思想の歴史研究:ルターの教会論、終末論の歴史的展開に関する研究。宗教改革急進派の神学思想における近代的要素の解明。
- ③①共編著『キリスト教神学命題集』日本キリスト教団出版局、2022 ②共著『1冊でわかるキリスト教史』日本キリスト教団出版局、2018 ③共著『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』教文館、2009

村山 盛葦 教授

- ①史的イエス、新約聖書学
- ②聖書学(歴史批評)にもとづいて、聖書テキストや初期キリスト教とりわけ古代ギリシア・ローマ世界の背景を踏まえて考察する。
- ③「パウロの論理的思想に関する研究の概観と問題点について」『基督教研究』2018, 80(2), 1-14.

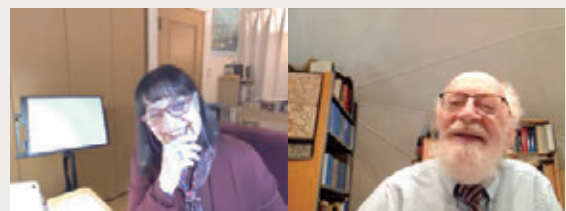
関谷 直人 教授

- ①臨床牧会学、説教とコミュニケーション
- ②キリスト教宣教における様々なコミュニケーション(教会カウンセリング、説教、音楽)の研究
- ③『牧会の羅針盤—メンタルヘルスの視点から—』キリスト新聞社、2015

TOPICS 世界の第一線で活躍する研究者から学ぶ

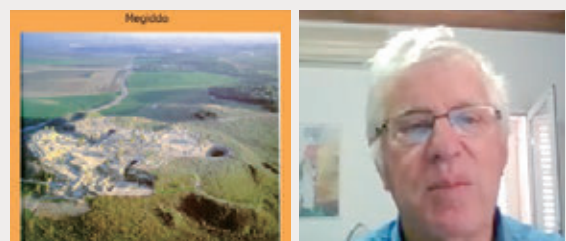
神学部・神学研究科及び一神教学際研究センターでは、世界中の先進的な宗教研究機関から卓越した研究者を招いて講演会やシンポジウムを数多く開催しています。2020-2021年度はエルサレムのヘブライ大学から2人の名誉教授をお迎えしました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、来日は願えませんでした。Zoomを活用してオンライン講演会を行いました。2020年秋学期にはモルデカイ・コーガン教授より、文学的・歴史的観点から見た『サムエル記』下と『列王記』上の成立過程について、2021年春学期にはアミハイ・マザール教授より、『ヨシュア記』と20世紀にイスラエルで発見された考古学的データとの関係について、最新の研究成果を伺いました。講演会以外にもワークショップや特別講義を開催し、世界の第一線で活躍する研究者から直接学ぶことのできる貴重な機会を提供しています。

(上)アダ・タガー・コヘン教授と談笑するモルデカイ・コーガン教授
(下)メギドの遺丘について語るアミハイ・マザール教授



アダ・タガー・コヘン教授

モルデカイ・コーガン教授



メギド

アミハイ・マザール教授